

# 復興は仲間と力を合わせて心もひとつに 仲間の支援に ずっと今も これからも 感謝

(宮城地本)

2012年3月11日 大震災から1年。



忘れることもできない3. 11東日本大震災から1年が経過し、津波で亡くなった組合員や多くの家族の方々に対して被災地からの追悼式や職場で集会を開催し、黙とうをささげるなど犠牲者を悼みご冥福をお祈りし、新たにあの日の思いと復興への思いを寄せました。

社屋が全壊となり、車両も流失され大きな被害を受けた多賀城復興支部の戸村久委員長は、あの日を振り返り、生きることで精一杯だったが、「助け合いながら共に必死で生きてきました」

この間全国の仲間の皆さまの支援に感謝をしたいと言い、まだ課題はたくさん残しているが一つずつ解決するしかない。流失した組合事務所の設置についてもようやく近々に設置できることになり弾みがつくれます。地域の復旧・復興と平行し、職場回復の道のりは大変険しいがこれからも前を向って進んで行きたいと話しています。

また津波で家が流され家族3人を失ったKM仙台支部の鈴木一郎組合員は、「仮設住宅での冬を超え、あの日から一変した現実に悲しみと生活の不安で落胆していましたが、組合から暖かな支援や激励にて自分を支えて頂いたことを「生涯忘れることはありません。最近、津波のこない場所に質素でも新たな家を持つ希望を胸に生活ができるようになり、仕事の励みとしています」と力強く語ってくれました。

震災から1年となる前日の3月10日宮城地本KM支部は、2012春闘協議を兼ね、職場集会を開催し、大沼富士雄委員長は「復興へは仲間と力を合わせて心もひとつに」として、これからも震災で築き上げた組合の「絆」を更に深め、今後の困難を乗り越えよう」と話、「これからの全自交労連本部はじめ全国の仲間の皆さまの支援に「ずっと今も、これからも感謝を忘れずに」と1年の節目に参加者全員の誓いや思いを集め、今後の復興への」支援や取り組みを呼びかけました。